

## 「湯川学」マップ発表会(地域公開)

### 1.「湯川学」のねらい

- (1) 函館市湯川地区の歴史・文化・自然等の学習をとおして、地域コミュニティの一員であることを意識しながら湯川地区(郷土)への広い理解と豊かな情操を育てる。
- (2) 情報の集め方・調べ方・まとめ方・発表の仕方など、課題解決のための学習方法を身につけさせ探求的な学習の良さを理解させる。
- (3) 集団行動を通して、公衆道徳や集団生活のきまり、安全について学ぶとともに、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

### 2.「湯川学」学年コンセプト

#### ① 1 学年 湯川学ベーシック【協働的に学ぶ】

- ・多様な情報を活用して協働的に学ぶ
- ・異なる視点から考え協働的に学ぶ
- ・力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ

#### ② 2 学年 湯川学アドバンス【言語活動の充実】

- ・体験から感じ取ったことを表現する
- ・事実を正確に理解し伝達する
- ・概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ・情報を分析・評価し、論述する

#### ③ 3 学年 湯川学キャリア【社会貢献につながるキャリアプランニング能力の育成】

- ・人間関係形成、社会形成能力、他者の個性を理解する力
- ・チームワーク、リーダーシップ
- ・他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル
- ・キャリア・パスポートの活用

### 3.「湯川学」開講に至るまでのこれまでの経緯とこれから

湯川中学校は、現在、重点教育目標「確かな学びを通して自分らしく未来を生きる生徒の育成」の実現に向けて、校区にある日吉が丘小学校、湯川小学校との小中連携事業のもと、小学校時代を含む9年間を通した系統的な教育活動を実践するとともに、「自律」と「尊重」をキーワードに学校教育を推進することで、予測困難で変化の激しい時代を自分らしく生きることが出来る生徒の育成を図っている。

生徒一人一人は「湯川学」を学ぶ過程で、湯川地区の歴史・文化・自然や温泉・観光等を支える人々と出会い、協働学習を通して湯川地区および函館市民の一員としての責任と義務があることを理解し、自らの生き方に価値を見出すことのできる資質と能力を身に付ける絶好の機会を得ることとなる。

また、学校司書が配置され、知の集積ともいえる図書室の活用に加えて、一昨年度から配布された一人一台端末(クロームブック)を積極的に活用し、生徒は閉ざされた教室を飛び出し、湯川地区の地域経済を支え、歴史・文化の創り手である人々と直接ふれ合い、豊かに学んでいる。

なお、これらの活動のベースには、湯川中学校の学校運営協議会(コミュニティ・スクール)との連動があり、本校と地域をつなぎ、連携する上で大きな力添えをいただいている。生徒には、このように、「湯川学」で得られる多様な学びを通じて、先の見通せない正解のない時代をたくましく生き抜くための力(自分らしく未来を生きる力)を身に付けさせたいと考えている。

「湯川学」の取組も今年で4年目を迎える。令和2年度には渡島教育局教育実践表彰を受賞し、昨年度からは市民憲章実践委嘱校の指定を受けている。本日は、1学年の「湯川学ベーシック(地域学習)」の成果の一端を、各学級代表の6組によるプレゼン形式にてご覧いただきます。

# 湯川学「地域学習」1年 9/1~8

7月4日 湯川学開講式  
鈴木一郎氏(熱帯植物園園長)による講演

